

読書を通して自分と向き合う

翻訳家 きむ ふなさん
(平16院文博)

昨年、ノーベル文学賞を受賞した韓国の作家、ハン・ガンさんの作品を、日本で最初に翻訳したのが、本学大学院文学研究科で博士後期課程を修めた、きむふなさん(平16修了)だ。ソウル出身で現在は川崎市在住。日本と韓国の文学の懸け橋として、翻訳や研究活動を精力的に行っている。きむさんが語る日韓の文学のこと、読書のこととは――。

ノーベル文学賞作家

ハン・ガンさんの作品を翻訳

韓国の大学・大学院で日本語と日本文学を学んだ後、島根県の国際交流員として来日しました。同県での日韓文学シンポジウム(1995年)で通訳を務めたことをきっかけに、もっと日本文学を学びたいと、文学研究科に留学しました。所属した柘植光彦ゼミはとても自由な雰囲気、刺激に満ちた4年間で

新しい文学を紹介

私にとって文学は「日常の中にあって当たり前のもの」。何らかの形で文学に関わりたいたいと思うようになりました。翻訳は、院生時代に偶然、バイト感覚で始めたけど、すごく楽しかった。帰国後、大学の講師をしながら、本格的に翻訳を始めました。

「韓国では、日本以上に文学が持つ力が重く受け止められています」と語るきむふなさん(図書館本館)

クオンという神保町の出版社が叢書「新しい韓国の文学」を刊行するにあたって、私はハン・ガンさんの『菜食主義者』を推薦しました。2011年のこと

で、日本では韓国文学といえど、政治色が強く、重いイメージ。もっと普遍的な作品も伝えたいとの思いがありました。『菜食主義者』は人間の中に潜む暴力性にあらう方法として、肉食を選んだ女性の物語です。叢書の第1弾として出版され、話題になりました。

その後、ハン・ガンさんの作品は次々と翻訳され、ノーベル文学賞受賞時、日本国内では8作品が翻訳出版されていました



ハン・ガンさんの『菜食主義者』

た。ずっと作品を読んできた日本の読者が喜んでくださったのがとても印象的です。

作品の背景を読む

翻訳に正解はありません。微妙なニュアンスや言葉の選択に悩んでばかりです。言語を置き換えるだけならAIでもできます。しかし作品の背景にある文化や社会、歴史を理解していないと見落としてしまうことがあります。行間を読むのも必要です。

一緒に世界を歩く

本離れといわれますが、厚みのある紙の本を読み切ったとき

の達成感、読書を通して自分と向き合った時間というのは得難いものです。人の世は不条理で、世界はあまりにも暴力的でもあります。

本を読むからといって、みんなが賢明で優しい人間になるとは限らないでしょう。それでも読書は、誰かと一緒にこの世界を歩んでいるという実感や、視野を広げてくれると思います。最近、韓国文学が注目されているとしたら、社会的な弱者に目を向け、時には声を上げ、時には手を差し伸べるような作品が多いからかもしれません。

ハン・ガンさんの詩集『引き出しに夕方をしまっておいた』を共訳しました。韓国では古くから詩が好まれていますし、日本でも最近詩を読む方が増えているように思います。SNSで「短い言葉を素敵にかっこよく」表現したい人が増えているのも理由でしょうか。分断や嫌悪の言葉ではない、自分の支えとなるような言葉を、文学作品から見つけてほしいと願っています。

ANAエアラインスクールと教育連携協定

キャリア形成支援課 役のCAやGSが講師を務め、実践的な指導を行っている。協定に基づき、本学生が受講する場

合、優待受講制度が適用されるほか、今後大学と連携したプログラムの開設が可能になる。

これ以外にも本学では航空業界を志望する学生を厚くサポートしている。航空業界志望者対象就職支援プログラムを開講しており、元国際線客室乗務員の職員がウェブ

で個別相談に応じているほか、今年度は年2回の航空業界セミナーを開催予定。8月には神田キャンパスで短期集中講座を開催する。問い合わせは、キャリア形成支援課(神田)まで。

協定を結んだ記念文庫長は「航空業界を希望する学生にはこの機会を利用してぜひチャレンジしてほしい」と期待を述べた。

就職だより

〈全年次生へ〉「駒澤大学女子×専修3大学合同グループディスカッション実践講座」を6月7日(土)に開催します。現役人事担当者や就活アドバイザーが面接官を担当し、他大学生と一緒に、本番さながらの環境でグループディスカッションを体験することが

できます。学年問わず参加できますのでこの機会をぜひ活用してください。開催場所は専修大学

神田キャンパス、詳細は「Sinet」で確認してください。

〈4年次生へ〉4年次生を対象とした求人情報が引き続き多くの企業から届いています。これらの情報は、就職支援システム「Sinet」の「来校企業情報」に掲載していますので、就職活動を継続している人はぜひ活用してください。

また、進路決定者は「進路届」を就職支援システム「Sinet」もしくはキャリア形成支援

専修大学史紀要 第17号発刊

『専修大学史紀要』第17号が発刊された。本学大史資料室編。

今号は、日高義博総長の講演録「総長の職責と研究の終着点」を掲載。このほか、第二次大戦後の1946年4月に専

門部経済科に入学した田島和一氏からの聞き取り調査、前号に引き続き元漕艇部の卒業生・渋谷隆宏氏(昭33商経)の日記、また校友・安斎勇雄氏(昭44商)から寄贈された明治初期から昭和にかけての会計や簿記に関する書籍類の一覧などが収録されている。

なお、口絵には専修大学創立145年記念・相馬永胤没後100年記念馬永胤没後100年記念ミニ企画展「相馬永胤のアメリカ留学時代」の様子が掲載されている。

『大学史紀要』は希望者に配布する。送料510円分の切手を同封の上、氏名、送付先を明記し、〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8 専修大学大史資料室に郵送。郵送された切手を使用して送付する。

専修大学史資料室TEL03・3265・5879

新室長に内藤教授

キャンパス・ハラスメント対策室

キャンパス・ハラスメント対策室長に内藤光博法学部教授Ⅱ写真Ⅱが就任した。任期は4月1日



キャンパス・ハラスメント対策室

■ 生田キャンパス 4号館1階
■ 神田キャンパス 9号館2階
※対面での相談は予約制です。連絡先はコラム「ハラスメントのないキャンパスへ」の下部に記しています。

公開講座情報

「特撮映画監督尾上克郎」公開インタビュー・メイキング映像上映
▽6月6日(金)18時15分
▽神田キャンパス10092教室
「演劇／舞台／芸術」
▽6月8日(日)10時半
▽神田キャンパス10062教室
▽登壇Ⅱ小川絵梨子氏(新国立劇場演劇芸術監督)、茂木令子氏(同演劇プロデューサー)
※いずれも聞き手は松田智穂子国際コミュニケーション学部教授。参加無料。どなたでも参加可。

キャンパス・ハラスメントは人権侵害行為、対策室に相談を！



キャンパス・ハラスメントとは、教員と学生との関係や教職員間における上司と部下の関係など、優越的関係のある中で、優位にある教員や上司が、学生や部下など劣位に立つ側の者に対して、教育活動や職務遂行のための合理的範囲を超えた不適切な言動(セクハラ・アカハラ・パワハラ)により、勉強・研究・労働環境を悪化させる行為です。

大学は、学生や院生にあっては自由な勉学と人格の陶冶の場であり、教職員にとっては教育・研究および労働の場です。個人の尊厳を損ない、快適に学修・研究・教育・労働する権利を侵害するキャンパス・ハラスメントは、絶対にあってはならない人権侵害行為です。

「専修大学キャンパス・ハラスメント防止規程」では、キャンパス・ハラスメントを「相手方の人格

の尊厳を傷つけるような言動によって相手方に不快感若しくは不利益を与え、又は相手方を差別的に取り扱い、若しくは不利益な取扱いをすることによって相手方の人権を侵害し、学修、教育、労働及び研究の環境を悪化させる行為」と定義し、快適に学修・研究・教育・労働する環境を維持するために、キャンパス・ハラスメントの発生を未然に防ぎ、あわせて発生した場合に適切な措置を講ずる組織として「キャンパス・ハラスメント対策室」を置いています。

もし、皆さんが、先に述べたようなハラスメント行為を受けた場合には、一人で悩むことなく、キャンパス・ハラスメント対策室にご相談ください。必ず力になります！

(キャンパス・ハラスメント対策室員長、法学部教授・内藤光博)

キャンパス・ハラスメント対策室

TEL: 044-900-7858
E-mail: camhara@acc.senshu-u.ac.jp